

信頼の主治医

明日の医療を支える
信頼のドクター
2026 年版

信頼の主治医

明日の医療を支える
信頼のドクター

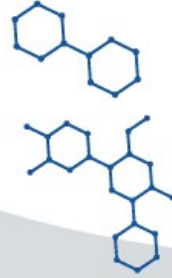
2026
年版

編著
株式会社
ぎょうけい新聞社

V2
edition

編著

株式会社 ぎょうけい新聞社



目立たない傷跡にこだわった乳がん手術を行う 乳腺外科医

頭皮冷却療法を始めとした様々な施策で乳がん患者を救う



実力者を招き、患者さんに
ハイレベルの医療を提供したいと思います

医療法人財団青葉会 青葉病院

院長 志茂 新

東京都世田谷区の医療法人財団青葉会 青葉病院。1981年の開業時から療養型医療施設として地域を支えてきたが、2023年のリニューアルによって乳腺外科を擁する医療施設へと生まれ変わった。新設された三軒茶屋プレストセンターは、地域で唯一乳がん検診から乳がん手術、乳房再建手術を一貫で行える施設であり、同地区でも重要な医療機関となっている。

同院が変化を遂げたのは、乳がん手術の第一人者である志茂新院長の入職に伴ったことだ。同氏は「患者さんが一番望む形の治療体制を、できる限り整えました。たとえば、抗がん剤治療の副作用による脱毛を抑えるため、頭皮冷却療法などを備えています」と語る。

傷が目立たない手術にこだわり、美学を貫いて来た志茂院長。手術後に患者から「綺麗に治してくれてありがとうございます」と感謝の言葉をもらうことも多いが、「当たり前のことをしていただけです」と至極謙虚な様子だ。そんな同氏の患者に対する想い、そして手掛けてきた医療に迫る。

一生残る傷跡を少しでも目立たなくするための30分 20年間で4000件以上の乳がん手術を手掛ける

神奈川県相模原市に生まれた志茂院長。医師を志したのは、母に「手に職を付けなさい」と声を掛けられたことがきっかけだった。志茂院長は「母は看護師でしたので、私を医師にしたい思いもあったと思います」と言う。また、「私としても『医師になってモテたい!』という気持ちがあったのです。そんなきっかけで医師を目指すことを決めました」と、気さくな笑顔で語る。

聖マリアンナ医科大学医学部ではラグビー部に所属。先輩の強い勧めから所属した部活だったが、ここでは大きな指針を得ることになる。



気軽に個室を利用できる入院設備を設けた青葉病院

「乳がん検診から化学療法までを一貫して行える医療施設に生まれ変わる」 「気軽に個室へ」入れるよう個室料を安価に設定

の先輩でした。そのご縁から直談判に行ったのです」

結果、世田谷区や法人内に乳がん検診や治療を行える施設がないこともあって、志茂院長は2023年、青葉病院へ入職し院長に就任する。

2023年にリニューアルを終え、乳がん治療を専門とする設備を備えた施設に生まれ変わった青葉病院。
「手術室の造設や必要な機器、設備、検診についてなど、殆どの要望を叶えてもらいました。お陰様で乳がん検診から入院、治療、手術、化学療法までを一貫して行える施設になっています。また診療体制を変えたことで、待ち時間も短くなりました」

大学病院では転移がない患者と、転移・再発した患者を同じ外来で診察していた。この際、転移した患者の診察が入ると、長い待ち時間が発生することも多かったという。

「当初は殆ど勝てない部でした。しかし大学3年生の時、全日本代表のコーチ経験者が、コーチとして来てくれたのです。その後は殆ど負けなくなり、『一流の指導者と出会い、日本トップクラスの場所にいると景色が違う。全く結果が変わるのだ』と、肌で感じました」
卒業が近くなった頃、志茂院長は進路を二つの科に絞り熟慮していた。大学病院として特に注力していた、乳腺外科とリウマチ内科である。
「凄く悩みましたが、内科から外科へ移行するのは難しいと聞き、まず外科を学ぶために乳腺外科を選びました」

2001年、聖マリアンナ医科大学病院乳腺・内分泌科に入局。ここでは福田護教授に師事し乳がんの手術を学んだ。「福田先生は昔から、『正面から見える場所に傷を作るな』と仰っていました。これに共感し、なるべく正面から見えない位置で手術をしています」

傷が目立たなくする術式は30分ほど手術時間が延びるが、「患者さんにとっては一生残る傷です。一生のためを思えば、30分苦勞する甲斐はあります」と志茂院長。また手術の対象が高齢者であっても「傷や形について要望がある人は少ないですが、変形が少ないよう形を整えています」と言うように、妥協なく真摯に力を尽くしている。

この志茂院長の技術は乳房再建の權威、佐武利彦教授からも「再建手術がしやすい」と高い評価を受けた。「佐武先生は美的感覚や再建の感覚が合う方です。この評価を嬉しく思い、更に技術を伸ばすことにしました」
聖マリアンナで年間約200件、20年間で4000件以上の乳がん手術を手掛けた志茂院長。十分に実績を積みセカンドキャリアについて考えだしたが、仕事量と給与が釣り合わない教授職も、手術を諦めることになる開業も気が進まなかった。

そんな折、自宅近隣にある青葉病院が目に入り、「ここに一貫して乳がんの診療を行える施設を作りたい」と思うように、「当院を運営する医療法人財団青葉会の理事長は、国内留学先だった東京大学医科学研究所



超音波測定装置や頭皮冷却療法に用いる機器などを活用している

高性能な超音波診断装置や骨密度測定用の設備を導入 頭皮冷却療法によって患者の脱毛を減少させる

そのため志茂院長は同院で転移のない患者の診療、週1度外来を行っている聖マリアンナ医科大学病院で転移がある患者の診察と、対応先を振り分けた。これにより、同院の待ち時間を減らしつつ、重篤な患者をじっくり診ることができ環境を作り上げている。

また病室については、個室の造設を行い、安価に利用できる体制を整えた。

「カーテンの仕切りがあるだけの大部屋は無料だから使用するだけで、望んでいる方は少ないでしょう。そのため同院は、『気軽に個室へ』をコンセプトとしました」

一般的な大学病院の個室料は1日約2万円、特別室ならば約10万円と高額だ。しかし同院では、1日5500円、特別室であっても1万5000円と設定し、安価にゆっくり過ごせる環境づくりを実現した。

「入院中はなるべくゆっくりしてほしい。そして、個室で気兼ねなく家族と過ごして欲しいと、個室料の設定にはこだわりました。気軽に利用していただけると嬉しいですね」

リニユーアルに当たり様々な機器を導入した同院。その筆頭が、乳がん治療の要となる超音波診断装置だ。導入した富士フィルム製の装置は高画質化技術とAIを搭載し、画像認識技術によって特徴が異なる領域を強調表示。これにより、乳がんの兆しを見逃さないようサポートすることで、検査スピードの向上、診断ミスの減少が期待できる。更に、院内で超音波技師を育成することにも貢献している。

また、乳がん患者は骨密度が下がりやすい年代の患者が多いため、骨密度測定用の設備を導入した。聖マリアンナでも気を配っていた分野で、志茂院長の豊富な知識と経験が反映された例である。

加えて三軒茶屋プレストセンター新設によって、同院での抗がん剤治療が可能となった。これに当たり志茂院長は、抗がん剤の副作用による脱毛を軽減するため、頭皮冷却療法を行う機器を導入した。

「抗がん剤治療を行うと100%脱毛します。しかし専用の冷却キャップを装着し頭皮の温度を下げると、血流が減少し、毛根に届く薬剤を減らすことができます。脱毛を軽減することで、患者さんの精神的な負担を少しでも減らせると嬉しいですね」

脱毛を軽減するだけでなく、「治療後に再び髪が生えるまでも早くなります」と志茂院長。「通常ウィッグを外せるまで1〜2年掛かりますが、頭皮冷却を行うと3、4カ月まで期間が短縮されました。そのため、患者さんにも積極的にお勧めしています」

更に、脱毛の相談外来を設けて月1回美容師を招聘し、脱毛やケアの紹介も行っているという同院。乳がん治療だけでなく外見の復帰にも注力する姿勢からは、一日でも早く日常を取り戻して欲しいという強い熱意を感じた。

PROFILE

志茂 新 (しも・あらた)

2001年、聖マリアンナ医科大学医学部 卒業。
 同年、聖マリアンナ医科大学病院乳癌・内分泌科 入局。
 2023年、医療法人財団青葉会 青葉病院 院長として入職。

専門分野

乳腺外科、内分泌外科

所属・認定資格

日本外科学会専門医、日本乳癌学会乳癌指導医、日本乳癌学会認定医、検診マンモグラフィ読影認定医

INFORMATION

医療法人財団青葉会 青葉病院



URL <https://www.aoba-hp.com/>

所在地	〒154-0004 東京都世田谷区太子堂2-15-2 TEL 03-3419-7111 FAX 03-3419-7114 プレストセンター 03-3419-8223
アクセス	東急田園都市線「三軒茶屋」駅 北出口B前 東急世田谷線「三軒茶屋」駅より徒歩1分
病床数	一般病床87床（一般病棟27床、特殊疾患病棟60床）
診療科目	内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病内科、乳腺外科、形成外科、婦人科、整形外科、リハビリテーション科
診療時間	〈月～金〉9:00～11:30、13:00～16:30 ※第4土曜乳腺外科、婦人科のみ診療 〈休日〉土（第1・2・3・5）・日・祝
理念	各人の尊厳を護り、人間愛に基づく医療を行います。



スタッフたちと共に「かゆいところに手が届く治療」を提供していく

提供も行っています」

この画像は、患者が余命僅かの時、「後で診ることができたらい記念になるし、映画の中に貴方の存在が残る。映画に検査画像を提供しませんか」と提案し、了承されたもの。

「その方は亡くなってしまいましたですが、ご家族が映画を観たら、故人を偲ぶこともできるでしょう。私は、患者さん全員を救える神様ではありません。しかし、もし治すことができなくても、癒しになれる部分があれば良いと思っています」

現在、世田谷区では、区外に出て乳がんの手術を受ける患者が多い現状がある。志茂院長はその状態を脱し、「なるべく区内で乳がんの手術を受けられるようにしたい。そのために、若い医師に手術を教えていきたいと思っています」と目標を掲げた。

加えて「待ち時間が少なく済み、大病院でなくとも最新の治療を受けられる場所であることを、これからも心掛けていきたい。大病院では難しい頭皮冷却などの、かゆいところに手が届く治療も、引き続き導入していきたいと思っています」とも語る。

自身を「神様ではない」と言う志茂院長だが、その手腕に救われた人々からは、神様にも見えるのではないかと。垣間見える患者への気遣いと、同院の発展を患者に寄与せんという志から、強くそう感じさせられた。